

今日のキーワード 「街角景気」、5カ月ぶりに改善（日本）

「景気ウォッチャー調査」は、内閣府が毎月実施する景況感に関する調査で「街角景気」調査とも呼ばれます。タクシー運転手やコンビニエンスストアの店長、レストラン経営者など、景気に敏感な約2,000人が調査対象（ウォッチャー）です。3カ月前と比べたその時点の景気と、2～3カ月前の景気予測を調査します。好不況を判断する際の中立水準は、50ポイントです。

ポイント1

現状判断DIは5カ月ぶりに改善 家計、企業、雇用の全てが改善

- 4月調査では、「街角景気」の実感を示す「現状判断DI（季節調整値）」が前月差+0.7ポイントの48.1ポイントとなりました。2016年11月以降、横ばいや低下が続いていましたが、5カ月ぶりに改善しました。項目別では、飲食関連や住宅関連が大きく上昇したほか、これらを含む家計動向関連の他に、企業動向関連、雇用関連の全てのDIが前月より上昇しました。
- 街角の声では、「外国人観光客に引っ張られている構図は依然として変わらないが、国内の客の動きも手ごたえを感じる」（九州・都市型ホテル）、「来客数が前年比で2けた近い伸びを示している」（近畿・百貨店）など、客足の回復の声が聞かれました。

ポイント2

先行き判断DIも2カ月ぶりに増加 人手不足への言及が増加

- 2～3カ月前の景気を聞いた「先行き判断DI（季節調整値）」は、同+0.7ポイントの48.8ポイントと2カ月ぶりに増加しました。雇用関連が大きく上昇したほか、家計動向関連、企業動向関連の全ての項目で上昇しました。
- 街角の声には、「今後2～3カ月の客室稼働率は、今月より実績の前年比プラス幅が大きくなる見込みである」（沖縄・観光型ホテル）といった客足回復の声が聞かれた一方、「乗務員不足による稼働率低下の影響がますます大きくなってきている」（北海道・タクシー運転手）と人手不足への懸念の声も聞かれました。



今後の展開

レジャー消費や天候要因が回復を後押し

- 先行きについては、北朝鮮問題など地政学リスクに警戒するコメントが見られたほか、人手不足への言及も従来より増加しました。一方で、消費については、夏のボーナスやハイシーズンに向けた期待の声も一部に見られました。
- 気象庁の季節予報によると、7月までの天候は全国的に平年並みか高くなることが予想されています。本格的なレジャー消費のハイシーズンに向けて、天候も後押しする要因となる見込みです。

ここも チェック!

2017年4月14日 景気の拡大・回復を示す「さくらレポート」（日本）
2017年4月12日 「街角景気」は一服感が続く（日本）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。